

新型コロナウイルス感染拡大後の健康状況

「2020 年学校健診後治療調査」より

2021 年 5 月 23 日
全国保険医団体連合会

■「新型コロナウイルス感染拡大」によって“受診ができない”児童・生徒たちがいる

2020 年に日本全国で感染が拡大した新型コロナウイルス。新型コロナウイルスは、全国で実施されている学校健診にも大きな影を落とした。新型コロナ感染拡大に伴う 2020 年 3 月 4 月の全国一斉休校を受け、学校健診は延期され、その後も健診実施に至るまでに時間を要した。加えて、「受診による新型コロナ感染」を恐れて、要受診とされているにも関わらず必要な受診ができていないことが明らかとなった。

■“受診できない”児童・生徒たちは増加している

全国保険医団体連合会は、学校健診で、「医療機関への受診が必要とされたにもかかわらず、受診できていない子どもたちがいる」ことを 2018 年に実施した「全国学校健診後治療調査」で明らかにした。その翌年、新型コロナウイルスの急拡大が起こった結果、前回調査に比べて、要受診とされた子どもたちの未受診率は、調査対象の歯科、眼科、耳鼻科、内科の全科において増加した。未受診の割合は、歯科健診は 62.3%（前回 57%）、眼科健診は 55.4%（前回 47.6%）、視力検査は 58.3%（前回 56.3%）、耳鼻科健診は 57.4%（前回 50.8%）、聴力検査 41.2%（前回 35.0%）内科健診 53.6%（前回 50.5%）となり、未受診の児童・生徒数は増加している。

■新型コロナウイルスによる広範囲にわたる影響事例が寄せられる

新型コロナウイルスによる影響については、40.3%の学校が「影響があった」と回答した。影響事例は、「肥満児童・生徒の増加」、「視力低下」、「保健室登校の増加」「虫歯のある児童・生徒の増加」など多数報告された。また、不登校、授業に欠席ぎみ、登校をしづる児童・生徒が多くいるとの声が養護教員から寄せられている。さらに、学校休校中の運動不足などに起因すると考えられる骨折などの怪我の増加、心身における体調不良の増加が指摘された。学校休校中、ゲームなどのメディアに費やす時間が増加したことで生活リズムの乱れや視力低下として影響が出ているとの声が寄せられた。歯科では、全体的に口腔内の状況が悪化し、虫歯のみでなく歯垢の付着や歯肉炎が増加していると指摘されている。「コロナ感染が不安」であることを理由にした受診控えも多く発生していたとの報告が寄せられた。

■コロナ禍の今こそ、国・自治体・地域での積極的な対策を

未受診の背景として「健康状態に対する親の理解不足」「共働き」「経済的困難」「ひとり親家庭」「無関心」などがあり、健診後の受診につながらない児童・生徒は家庭に何らかの問題を抱えていることは、前回の学校健診後治療調査で明らかにした。前述の状況が改善されない中で、今回、新型コロナウイルス感染拡大による「受診控え」が加わり、児童・生徒を取り巻く健康状況が悪化していることが分かった。児童・生徒の健全な成長・発達を保障する上で、必要な受診を促すことを目的として、国・自治体・学校・医療関係者・地域が連携した積極的な対応が求められる。

2020 年度学校健診後治療調査の要受診率・未受診率

	2020 年調査				2019 年調査	
	栃木県		全国		全国	
	要受診率	未受診率	要受診率	未受診率	要受診率	未受診率
歯科	33.3%	57.8%	31.1%	62.3%	32.0%	57.0%
眼科	2.4%	46.4%	4.6%	55.4%	5.1%	47.6%
視力検査	38.6%	56.4%	36.9%	58.3%	33.3%	56.3%
耳鼻科	13.7%	50.1%	13.5%	57.4%	15.7%	50.8%
聴力検査	1.1%	38.0%	1.4%	41.2%	1.1%	35.0%
内科	4.6%	53.4%	3.7%	53.6%	3.6%	50.5%

※「2020 年学校健診後治療調査」は、全国 31 都道府県の公立、私立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校を対象に 2021 年 2 月 5 日～3 月 31 日にかけて行った。調査票を 23,774 校へ送付し、4,923 校（回収率 20.7%）から回答があった。

※栃木県においては、小学校・中学校・高等学校を対象に調査を行った。調査票を 603 校へ送付し、175 校（回収率 29.0%）から回答があった。

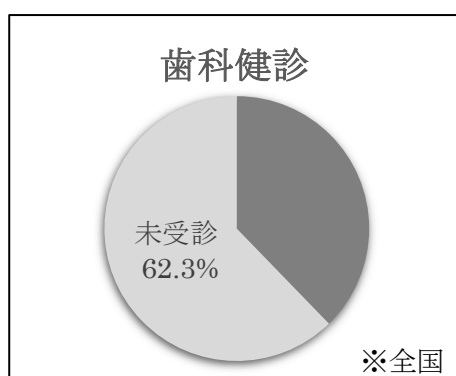
歯科

歯科健診を受けた児童・生徒のうち、31.1%（前回は32.0%）が要受診と診断されたが、要受診と診断された児童・生徒の62.3%（前回は57.0%）が「未受診」だった。

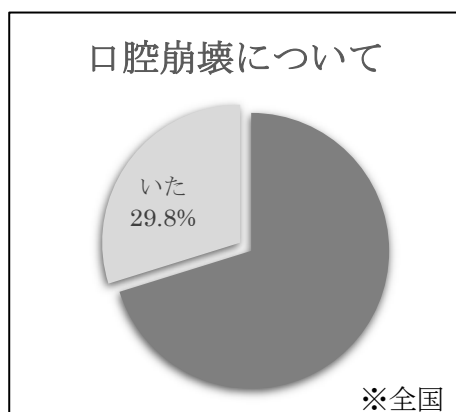
新型コロナ感染拡大によって、「感染の恐れ」を理由にした歯科の未受診者の増加が原因で、前回調査時の未受診割合を上回っている。養護教員からは「コロナが落ち着くまで保護者が健診後の受診を控えている」との指摘がある。同時に、感染拡大により、学校健診時期が遅れたことにより、受診までの報告期間が短かったことも受診率が上がらなかった一因とする一方、養護教員自身もコロナ禍において、歯科受診を強く勧められていないという現状も報告された。また、「新型コロナウイルス感染症拡大により、給食後の歯磨きの実施や歯科指導の染め出しができず、来年度以降歯の増加を心配している。」（岐阜・小学校）との声が寄せられるなど、歯磨きが学校で行えなくなったとの報告も多く寄せられた。

口腔崩壊（むし歯が10本以上、歯の根っこしかない未処置歯があるなど咀嚼が困難な状態）の児童・生徒たちの有無については、「いた」と回答した学校が、29.8%となり、前回調査（28.9%）同様の結果となった。口腔崩壊に陥っている児童・生徒数は3839人（約0.3%）との結果となった。むし歯のある児童・生徒数は、歯磨き習慣やフッ素塗布などにより近年減少しているが、極端にむし歯が多く、口腔内が放置されている児童・生徒は存在している。事例では、「歯周炎がひどく、歯茎から出血している。母子家庭と経済的貧困、子への無関心のため受診できずに、保健室に「痛い」と訴えてくる」（千葉・小学校）、「（むし歯が）10本以上ある児童のほとんどが、医療を受診していない。（1回もしたことがない）」（大阪・小学校）。また、「多数虫歯を保持している生徒や、毎年歯科健診の日に欠席し、その後の受診にもいかない生徒がおります」（秋田・中学校）などの声に代表されるように、歯科健診に欠席する児童・生徒の健康状況は把握できておらず、実際の健康状況が危惧される。

※栃木県保険医協会が行った2018年調査と比べると、未受診率は改善の方向にあるが、中学校だけでみると健診後の受診が進んでいないことがわかった。コロナ禍による影響も伺えるが、受診を促す積極的な対応が求められる。



	栃木県		全国	
	歯科健診割合	人数	歯科健診割合	人数
受診	42.2%	6,744	37.7%	148,590
未受診	57.8%	9,230	62.3%	245,156
要受診	33.3%	15,974	31.1%	393,746
歯科健診人数		47,947		1,264,395



	栃木県		全国	
	口腔崩壊の割合	学校数	口腔崩壊の割合	学校数
いなかった	55.6%	100	70.2%	3,436
いた	43.9%	79	29.8%	1,459
回答校数		179		4,894

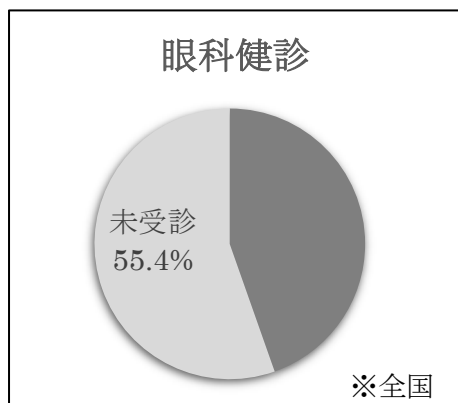
眼科

眼科健診（視力検査をのぞく）をうけた児童・生徒のうち、要受診と診断されたにもかかわらず、未受診であった児童・生徒は、55.4%（前回 47.6%）、視力検査の場合は、58.3%（前回 56.3%）となり 2018 年調査より未受診率は上昇した。

眼科への受診が遅れた結果、「眼疾患を治療しなかったために、症状が悪化した」（愛媛・小学校）、「受診を勧めるが保護者はコロナ感染が不安で病院につれていけない。その後 Dr. と学校のすすめで 4 か月後受診、ヘルペスと診断された」（茨城・中学校）「視力がずっと（D.D.）だったのにそのまま放置して数年たってしまったが、進路が関わっているため、ようやく受診し、両眼、網膜剥離が判明。手術治療を受けた」（千葉・高校）など、痛ましい報告が寄せられた。

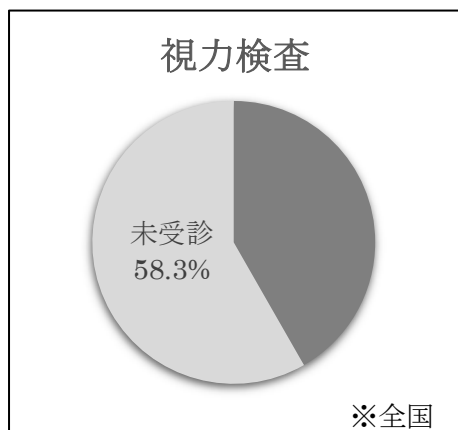
新型コロナウイルス感染拡大により、ゲームやスマホ、SNS に費やす時間が増加したとの報告が寄せられる中、「長期休校の影響か、視力低下した児童が多くいた。28 名中 19 人受診が必要という学級があり座席配列にこまった」（愛知・小学校）、「視力 D の生徒が前年度の 5 倍という結果が出た。休校になり、自宅で過ごす時間も増えたが、テレビやゲームの時間が長時間であったり、近くのものばかりを見ている生活も一因ではないかと考える」（宮城・小学校）など、子どもたちの視力低下の傾向が指摘された。

また、眼鏡を購入するための経済的な負担が問題となっている事例も寄せられている。「メガネは医療助成の対象外のため、受診してメガネ処方されても作らない（作れない）家庭がある。」（東京・小学校）、「めがねを更新したいが（保護者の仕事が変わり）収入が減ったので買いにいけないと保護者から言われた（京都・中学校）などである。



※栃木県では、「要受診で眼科を受診し、眼鏡レンズ交換との指示が出たが、時間とお金の問題で新しい眼鏡（視力にあったもの）を買い替えてない。」（中学校）といった声があがった。

	栃木県		全国	
	眼科健診割合	人数	眼科健診割合	人数
受診	53.6%	521	44.6%	18,228
未受診	46.4%	451	55.4%	22,632
要受診	2.4%	972	4.6%	40,860
眼科健診人数		40,486		897,416



	栃木県		全国	
	視力検査割合	人数	視力検査割合	人数
受診	43.6%	8,789	41.7%	195,732
未受診	56.4%	11,382	58.3%	273,375
要受診	38.6%	20,171	36.9%	469,107
視力検査人数		52,190		1,272,115

耳鼻科

耳鼻科健診（聴力検査を除く）を受けた児童・生徒のうち要受診と診断されたにもかかわらず、未受診だった子どもの割合は、57.4%（前回 50.8%）、聴力検査は 41.2%（前回 35.0%）となり、大幅に上昇している。

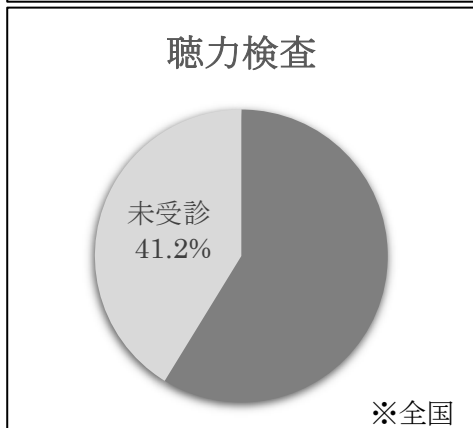
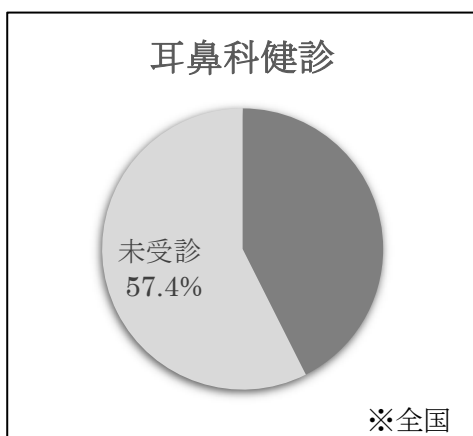
養護教員からは、「鼻炎、中耳炎、耳垢でもなかなか受診せず、勉強に集中できない場面があった」（千葉・小学校）、「鼻炎を放置して鼻づまりによる頭痛を訴えて来室する」（佐賀・小学校）など、学校での学習・生活面において、支障をきたしている報告が寄せられた。

また聴力低下の対応が必要な児童・生徒について、「補聴器を購入できない」（三重・小学校）「難聴のため補聴器をつけているが、壊れていたり、新しいものが必要でも購入の手続きがしてもらえない」（京都・中学校）との事例も寄せられ、「聴こえない」子どもたちへの対応が必要な状況が明らかとなっている。

新型コロナ感染拡大が影響して、「扁桃肥大で主治医から手術を進められているが、保護者は不要と判断している。コロナ感染の心配もあり、本年度の受診を見送ったとの連絡があった」（岩手・中学校）との報告が寄せられている。

養護教員からは、受診を促すため取り組むも受診につながらなかった「何度も受診を勧めたが、必要性を感じて頂けなかった」（長野・中学校）との報告や、受診に成功した事例として「受診の勧めに応じず、耳鼻科医との連携で、養護教員同伴で受診した」（宮城・小学校）と医療関係者と学校の連携が図られている報告があった。

※栃木県では、「聴力低下を放置していて、無視をしていると思われるしまい、友人関係が悪化してしまった。」（小学校）といった、聴力の低下が交友関係に悪影響を与える事例も報告された。



	栃木県		全国	
	耳鼻科健診割合	人数	耳鼻科健診割合	人数
受診	49.9%	2,574	42.6%	42,791
未受診	50.1%	2,587	57.4%	57,706
要受診	13.7%	5,161	13.5%	100,497
耳鼻科健診人数		37,548		745,890

	栃木県		全国	
	聴力検査割合	人数	聴力検査割合	人数
受診	62.0%	264	58.8%	7,707
未受診	38.0%	162	41.2%	5,407
要受診	1.1%	426	1.4%	13,114
聴力検査人数		38,199		932,409

内科関連

内科診断を受けた児童・生徒のうち要受診と診断されたにもかかわらず、未受診だった児童・生徒の割合は、53.6%（前回 50.5%）となり、未受診率は上昇した。

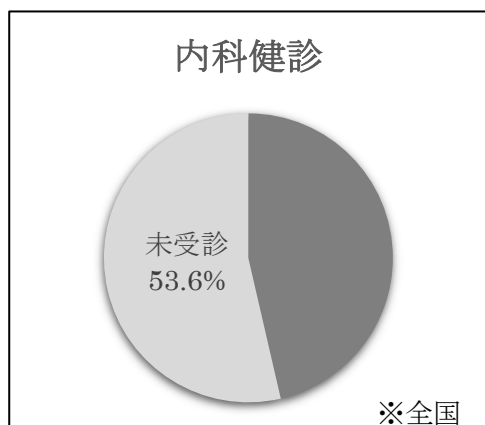
内科関連の具体的困難事例は、773 事例寄せられた。その中で、今回一番多かったのは「肥満児童・生徒の増加」で、二番目に多かったのは、不登校児・生徒の増加、そして三番目は心の問題、4 番目はアトピー性皮膚炎疑いと続く。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための一斉休校中に、肥満の児童・生徒が増加したとの報告が多数寄せられたが、「肥満についての保護者の認識が低い」（茨城・小学校）との声も同時に多いことが分かった。一方で、「養育放棄の要素の強い低栄養の子がいる」（宮城・小学校）との報告があるように、満身に食べることができていない状況も報告された。また、「摂食障害・神経性食欲不振症」（山梨・中学校）もあり、体重が減少している児童・生徒がいるとの声も寄せられた。

不登校の増加については、心の問題を抱えているための不登校であるとの指摘もある。一方で、「不登校が増え、健診自体を受けていない生徒が増加。その生徒たちに肥満や生活習慣病が増えていく。」（大阪・中学校）との回答にあるように、学校健診そのものを受けない児童・生徒が増加し、健康状況の把握できていない可能性もある。

アトピー性皮膚炎については、「アトピー性皮膚炎の疑いがある生徒が体育後（特にバレーボール）に手のひらの出血で来室することが多い。何度も受診を促すが受診につながらない、この生徒は歯科健診でも要受診とされているがいまだ未受診」（石川・高校）と報告が寄せられているように、複数科で未受診であるとの指摘もある。

※栃木県では、心電図異常について「心臓健診にて要精密検査となったが、学校は速やかな受診を促しているが応じない」（小学校）、「肥満で受診勧告書を出すと、きちんと受診してくれる家庭は改善傾向にあるが、受診しない家庭は維持・増加傾向にある。」（小学校）など、児童・生徒の健康を心配する声も寄せられている。



	栃木県		全国	
	内科健診割合	人数	内科健診割合	人数
受診	46.6%	1,089	46.4%	21,616
未受診	53.4%	1,249	53.6%	24,985
要受診	4.6%	2,338	3.7%	46,601
内科健診人数		51,323		1,268,976

未受診について

未受診の理由について、養護教諭に尋ねたところ、一番多かったのは「健康への理解不足」（前回調査時同様）だったが、今回は「新型コロナ感染による受診控え」が次に多く、3番目が「共働き」、4番目が「無関心」と続いた。

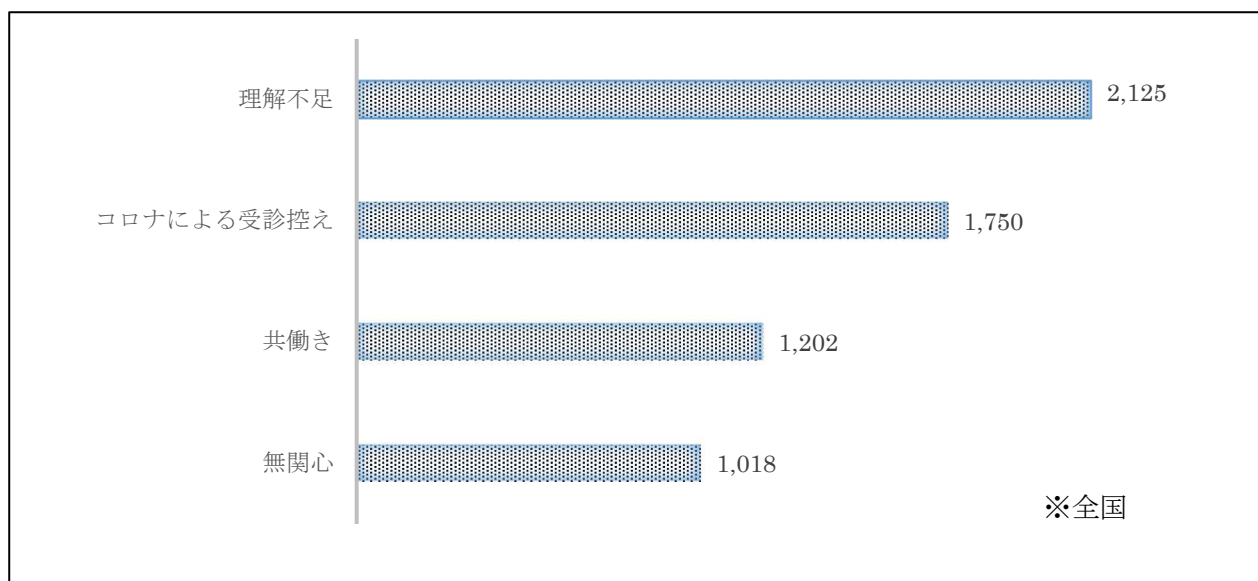
未受診の児童・生徒は、家庭環境に何らかの問題を抱えていることは明らかであるが、今回の調査では、新型コロナウイルスの感染拡大という要素が加わったことで、医療が必要な児童・生徒が十分な受診をできず健康状況が悪化している報告が寄せられた。

未受診についての自由記載欄では「兄弟が多く世話ができない」（北海道・小学校）、「へき地のため近くに病院がなく、車で一時間以上かかるためハードルが高い」（奈良県・中学校）、「受診しているが学校への申告のし忘れがある」（山梨・小学校）などの報告にみられるように、未受診の要因は多岐にわたる。また、「アレルギー結膜炎などは毎年のことだから症状もきつくないので受診するほどのことでもないという考えの方もいる」（京都・中学校）との意見に象徴されるように、症状が軽いとの保護者の判断で未受診となっている事例も多いことが養護教員から寄せられた。

※栃木県でも、「健康への理解不足」が一番多かった。その中で、「体調が悪くなったり、生活に支障をきたしたりしていないので大丈夫だろうと考えている」（小学校）、「生徒自身の時間がない（部活や塾など）」（中学校）、「本人に自覚がない」（高校）との意見が寄せられた。

未受診の理由

	栃木県	全国
理解不足	100	2,125
コロナによる受診控え	79	1,750
共働き	50	1,202
無関心	43	1,018



新型コロナによる影響事例

新型コロナによる影響事例の有無については、40.3%の各学校が「影響があった」と回答した。全国において、新型コロナによる影響事例では、一番多かったのは「肥満児童・生徒の増加」、二番目が「視力低下」、三番目が「保健室登校の増加」、四番目が「むし歯のある児童の増加」だった。

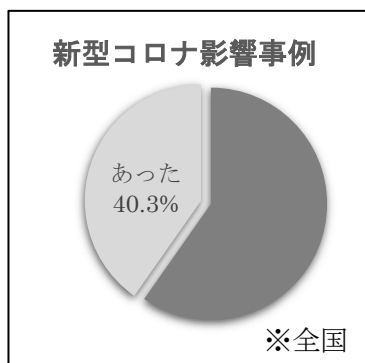
自由意見欄からは、「不登校や登校しぶり」が全国で増加していることがわかった。また、学校休校中の運動不足などに起因すると考えられる骨折などの怪我の増加、心身における体調不良の増加が指摘された。特に心の病気を心配する声が多く寄せられた。

児童・生徒の体重増加の報告が圧倒的に多いものの、一方で中高校生は摂食障害などで体重減少が起こっていることも報告された。

視力低下については、学校休校中にゲームやスマートフォンなどに時間を費やし、近くのを多く見る生活が続いたことが要因ではないかとの声が寄せられている。ゲームなどによって、昼夜逆転を含む生活リズムの乱れが起こっているとの指摘もある。

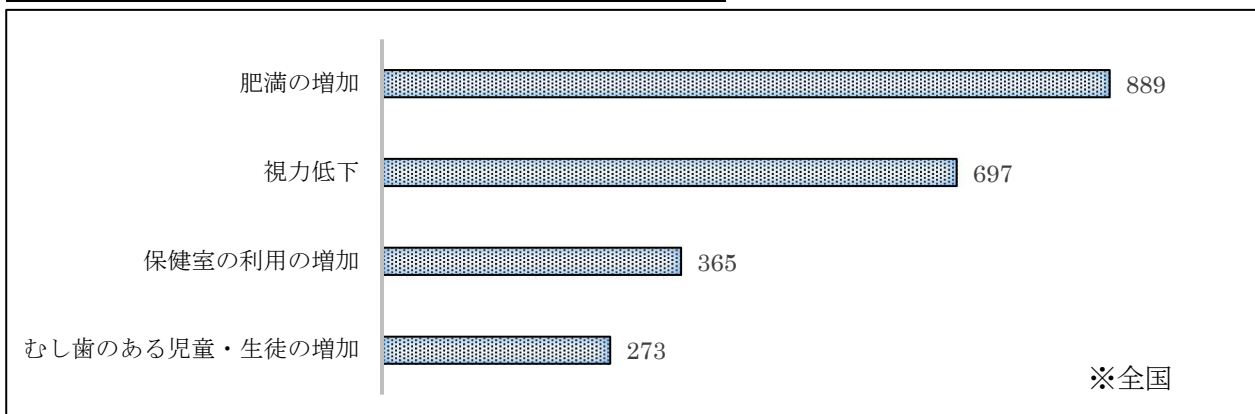
続いて、口腔内の状況が全体的に悪化し、虫歯のみでなく歯垢の付着や歯肉炎が増加していると指摘されている。要受診とされ、受診を促されても「コロナ感染が不安」であることを理由にした受診控えも多く発生していたとの報告が寄せられた。

※全国と比べて栃木県では、新型コロナによる影響が大きかったことがわかった。「歯科受診が心配と思っている保護者が多い印象。」(小学校)、「臨時休校後、体力低下の傾向が見られた。ケガをする児童、熱中症疑いの児童が増えた。」(小学校)とのケースが報告された。



	栃木県		全国	
	「新型コロナ」影響事例の有無	学校数	「新型コロナ」影響事例の有無	学校数
なかった	51.7%	89	59.7%	2,839
あった	47.1%	81	40.3%	1,913
回答校数		172		4,752

	栃木県	全国
肥満児童・生徒の増加	43	889
視力低下	27	697
保健室の利用の増加	9	365
むし歯のある児童・生徒の増加	16	273



学校別の受診状況（栃木県）

「歯科健診」後の状況（栃木県）

歯科健診を受けた児童・生徒の数		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数					
		〔診断後の対応状況〕					
		受診した		受診していない			
① 小学	26,826人	① 小学	10,016人 37.3%	① 小学	5,301人 52.9%	① 小学	4,715人 47.1%
② 中学	13,936人	② 中学	4,190人 30.1%	② 中学	1,164人 27.8%	② 中学	3,026人 72.2%
③ 高校	7,120人	③ 高校	1,712人 24.0%	③ 高校	260人 15.2%	③ 高校	1,452人 84.8%

「眼科健診」後の状況（栃木県）

眼科健診を受けた児童・生徒の数		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数					
		〔診断後の対応状況〕					
		受診した		受診していない			
① 小学	22,694人	① 小学	622人 2.7%	① 小学	376人 60.5%	① 小学	246人 39.5%
② 中学	11,803人	② 中学	298人 2.5%	② 中学	127人 42.6%	② 中学	171人 57.4%
③ 高校	5,925人	③ 高校	52人 0.9%	③ 高校	18人 34.6%	③ 高校	34人 65.4%

「視力検査」後の状況（栃木県）

視力検査を受けた児童・生徒の数		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数					
		〔診断後の対応状況〕					
		受診した		受診していない			
① 小学	27,010人	① 小学	9,032人 33.4%	① 小学	5,171人 57.3%	① 小学	3,861人 42.7%
② 中学	14,291人	② 中学	7,108人 49.7%	② 中学	3,056人 43.0%	② 中学	4,052人 57.0%
③ 高校	10,824人	③ 高校	4,000人 37.0%	③ 高校	546人 13.7%	③ 高校	3,454人 86.4%

「耳鼻科健診」後の状況(栃木県)

耳鼻科健診を受けた児童・生徒の数							
		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数					
		〔診断後の対応状況〕					
		受診した		受診していない			
① 小学	21,107 人	① 小学	3,402人 16.1%	① 小学	1,982人 58.3%	① 小学	1420人 41.7%
② 中学	10,392 人	② 中学	1,246人 12.0%	② 中学	470人 37.7%	② 中学	776人 62.3%
③ 高校	5,984 人	③ 高校	511人 8.5%	③ 高校	121人 23.7%	③ 高校	390人 76.3%

「聴力検査」後の状況(栃木県)

聴力検査を受けた児童・生徒の数							
		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数					
		〔診断後の対応状況〕					
		受診した		受診していない			
① 小学	20,343 人	① 小学	281人 1.4%	① 小学	196人 69.8%	① 小学	85人 30.2%
② 中学	9,990 人	② 中学	106人 1.1%	② 中学	52人 49.1%	② 中学	54人 50.9%
③ 高校	7,823 人	③ 高校	38人 0.5%	③ 高校	15人 39.5%	③ 高校	23人 60.5%

「内科健診」後の状況(栃木県)

内科健診を受けた児童・生徒の数							
		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数					
		〔診断後の対応状況〕					
		受診した		受診していない			
① 小学	26,380 人	① 小学	1,351人 5.1%	① 小学	728人 53.9%	① 小学	623人 46.1%
② 中学	14,071 人	② 中学	8,22人 5.8%	② 中学	296人 36.0%	② 中学	526人 64.0%
③ 高校	10,807 人	③ 高校	165人 1.5%	③ 高校	65人 39.4%	③ 高校	100人 60.6%

歯科「口腔崩壊」状態について(栃木県)

回答が寄せられた 学校数	「口腔崩壊」の児童・生徒がいた			いなかった
	〔「口腔崩壊」の内訳〕			
	むし歯が 10本以上ある	未処置歯の歯が 何本もある		
① 小学校	117校	56校 47.9%	47校	9校 61校 52.1%
② 中学校	50校	15校 30.0%	16校	0校 34校 68.0%
③ 高校	12校	7校 58.3%	7校	0校 5校 41.7%

「未受診」の要因（栃木県）

	① 小学校 95校が回答	② 中学校 41校が回答	③ 高校 13校が回答
1理解不足	65 校 68.4%	26 校 63.4%	8 校 61.5%
2コロナによる受診控え	48 校 50.5%	20 校 48.8%	10 校 76.9%
3共働き	30 校 31.6%	14 校 34.1%	5 校 38.5%
4無関心	28 校 29.5%	13 校 31.7%	2 校 15.4%
5ひとり親家庭	30 校 31.6%	10 校 24.4%	2 校 15.4%
6経済的困難	13 校 13.7%	8 校 19.5%	3 校 23.1%
7心身の状態が不安定	9 校 9.5%	4 校 9.8%	2 校 15.4%
8発達障がいがある	6 校 6.3%	3 校 7.3%	0 校 0.0%
9その他	8 校 8.4%	6 校 14.6%	2 校 15.4%

「新型コロナ」影響事例について（栃木県）

	① 小学校 110校が回答	② 中学校 48校が回答	③ 高校 13校が回答
影響があった	59 校 53.6%	18 校 37.5%	4 校 30.8%
影響はなかった	49 校 44.5%	30 校 62.5%	9 校 69.2%
〔影響があった内容〕			
1肥満児童・生徒の増加	36 校 61.0%	6 校 33.3%	1 校 25.0%
2視力低下の児童・生徒の増加	19 校 32.2%	7 校 38.9%	1 校 25.0%
3保健室利用の増加	5 校 8.5%	2 校 11.1%	2 校 50.0%
4むし歯のある児童・生徒の増加	11 校 18.6%	4 校 22.2%	1 校 25.0%

学校別の受診状況（全国）

「歯科健診」後の状況（全国）

歯科健診を受けた児童・生徒の数			
		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数	
		〔診断後の対応状況〕	
		受診した	受診していない
① 小学	615,849 人	① 小学 205,365人 33.3%	① 小学 101,111人 49.2%
② 中学	294,475 人	② 中学 87,681人 29.8%	② 中学 62,668人 71.5%
③ 高校	311,633 人	③ 高校 86,017人 27.6%	③ 高校 72,510人 84.3%
④ 支援	19,465 人	④ 支援 7,608人 39.1%	④ 支援 4,807人 63.2%
		① 小学 104,254人 50.8%	
		② 中学 25,013人 28.5%	
		③ 高校 13,507人 15.7%	
		④ 支援 2,801人 36.8%	

「眼科健診」後の状況（全国）

眼科健診を受けた児童・生徒の数			
		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数	
		〔診断後の対応状況〕	
		受診した	受診していない
① 小学	454,774 人	① 小学 22,180人 4.9%	① 小学 9,977人 45.0%
② 中学	211,942 人	② 中学 9,763人 4.6%	② 中学 6,219人 63.7%
③ 高校	195,987 人	③ 高校 6,293人 3.2%	③ 高校 4,789人 76.1%
④ 支援	17,328 人	④ 支援 1,676人 9.7%	④ 支援 1,084人 64.7%
		① 小学 12,203人 55.0%	
		② 中学 3,544人 36.3%	
		③ 高校 1,504人 23.9%	
		④ 支援 592人 35.3%	

「視力検査」後の状況（全国）

視力検査を受けた児童・生徒の数			
		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数	
		〔診断後の対応状況〕	
		受診した	受診していない
① 小学	624,326 人	① 小学 205,847人 33.0%	① 小学 90,521人 44.0%
② 中学	297,413 人	② 中学 139,970人 47.1%	② 中学 88,286人 63.1%
③ 高校	308,407 人	③ 高校 107,855人 35.0%	③ 高校 85,081人 78.9%
④ 支援	18,500 人	④ 支援 7,046人 38.1%	④ 支援 4,902人 69.6%
		① 小学 115,326人 56.0%	
		② 中学 51,684人 36.9%	
		③ 高校 22,774人 21.1%	
		④ 支援 2,144人 30.4%	

「耳鼻科健診」後の状況(全国)

耳鼻科健診を受けた児童・生徒の数			
		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数	
		〔診断後の対応状況〕	
		受診した	受診していない
① 小学	386,837 人	① 小学 61,120人 15.8%	① 小学 28,966人 47.4%
② 中学	177,463 人	② 中学 23,479人 13.2%	② 中学 16,617人 70.8%
③ 高校	154,123 人	③ 高校 12,204人 7.9%	③ 高校 9,965人 81.7%
④ 支援	16,364 人	④ 支援 2,358人 14.4%	④ 支援 1,403人 59.5%
		① 小学 32,154人 52.6%	
		② 中学 6,862人 29.2%	
		③ 高校 2,239人 18.3%	
		④ 支援 955人 40.5%	

「聴力検査」後の状況(全国)

聴力検査を受けた児童・生徒の数			
		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数	
		〔診断後の対応状況〕	
		受診した	受診していない
① 小学	460,310 人	① 小学 7,985人 1.7%	① 小学 2,579人 32.3%
② 中学	213,098 人	② 中学 2,374人 1.1%	② 中学 1,161人 48.9%
③ 高校	229,010 人	③ 高校 1,870人 0.8%	③ 高校 1,119人 59.8%
④ 支援	14,033 人	④ 支援 721人 5.1%	④ 支援 479人 66.4%
		① 小学 5,406人 67.7%	
		② 中学 1,213人 51.1%	
		③ 高校 751人 40.2%	
		④ 支援 242人 33.6%	

「内科健診」後の状況(全国)

内科健診を受けた児童・生徒の数			
		健診にて「要医療機関受診」と診断された人数	
		〔診断後の対応状況〕	
		受診した	受診していない
① 小学	610,608 人	① 小学 25,113人 4.1%	① 小学 12,337人 49.1%
② 中学	290,604 人	② 中学 12,196人 4.2%	② 中学 6,906人 56.6%
③ 高校	325,634 人	③ 高校 7,402人 2.3%	③ 高校 4,724人 63.8%
④ 支援	19,280 人	④ 支援 1,115人 5.8%	④ 支援 6,396人 57.3%
		① 小学 12,776人 50.9%	
		② 中学 5,290人 43.4%	
		③ 高校 2,678人 36.2%	
		④ 支援 476人 42.7%	

歯科「口腔崩壊」状態について(全国)

回答が寄せられた 学校数	「口腔崩壊」の児童・生徒がいた			いなかった
	[「口腔崩壊」の内訳]			
	むし歯が 10本以上ある	未処置歯の歯が 何本もある		
① 小学校 2,655校	811校 30.5%	729校	109校	1,844校 69.5%
② 中学校 1,237校	242校 19.6%	219校	19校	993校 80.4%
③ 高校 711校	314校 44.2%	289校	4校	397校 55.8%
④ 支援学校 205校	78校 38.0%	65校	15校	127校 62.0%

「未受診」の要因(全国)

	① 小学校 2,024校が回答	② 中学校 928校が回答	③ 高校 580校が回答	④ 特別支援学校 145校が回答
1理解不足	1,167 校 57.7%	527 校 56.8%	342 校 59.0%	60 校 41.4%
2コロナによる受診控え	891 校 44.0%	457 校 49.2%	305 校 52.6%	66 校 45.5%
3共働き	706 校 34.9%	332 校 35.8%	117 校 20.2%	25 校 17.2%
4無関心	575 校 28.4%	262 校 28.2%	151 校 26.0%	18 校 12.4%
5ひとり親家庭	526 校 26.0%	244 校 26.3%	132 校 22.8%	23 校 15.9%
6経済的困難	373 校 18.4%	157 校 16.9%	201 校 34.7%	41 校 28.3%
7心身の状態が不安定	198 校 9.8%	93 校 10.0%	43 校 7.4%	20 校 13.8%
8発達障がいがある	110 校 5.4%	48 校 5.2%	30 校 5.2%	78 校 53.8%
9その他	197 校 9.7%	142 校 15.3%	124 校 21.4%	20 校 13.8%

「新型コロナ」影響事例について

	① 小学校 2,577校が回答	② 中学校 1,200校が回答	③ 高校 690校が回答	④ 特別支援 学校 200校が回答
影響があった	1,109 校 43.0%	464 校 38.7%	227 校 32.9%	80 校 40.0%
影響はなかった	1,468 校 57.0%	736 校 61.3%	465 校 67.4%	120 校 60.0%
[影響があった内容]				
1肥満児童・生徒の増加	604 校 54.4%	169 校 36.4%	51 校 22.5%	48 校 60.0%
2視力低下の児童・生徒の増加	471 校 42.5%	144 校 31.0%	50 校 22.0%	16 校 20.0%
3保健室利用の増加	203 校 18.3%	91 校 19.6%	60 校 26.4%	4 校 5.0%
4むし歯のある児童・生徒の増加	162 校 14.6%	65 校 14.0%	28 校 12.3%	12 校 15.0%

終わりに

2020年度学校健診後調査では、新型コロナウイルス感染症が学校現場の児童・生徒たちに一定の影響を及ぼし、健康悪化が非常に危惧される結果となった。特に、新型コロナウイルスの感染拡大により引き起こされた受診抑制によって、未受診者が増加しているとの養護教諭の指摘は、見逃すことができない。実際に、児童・生徒に必要な受診ができていない（できていなかった）か否かについては、先ず、国や自治体が調査を行い、未受診をなくすことが求められる。そのうえで、児童・生徒の健全な発育・発達を保障する上で、必要な受診を促すことを目的として、国・自治体・学校・医療関係者・地域が連携した積極的な対応が求められる。

今回の学校健診後治療調査を踏まえ、子どもたちの命と健康を育むために下記の点を提言する。

■全国保険医団体連合会（保団連）の提言

（1）未受診を「自己責任」とせず、受診しやすい環境を整えること

新型コロナウイルス感染症が広がっている中だからこそ、学校健診で要受診と診断された場合には積極的に医科・歯科医療機関を受診し、精密な検査及び治療を受ける必要がある。

特に成長期に当たる子どもたちの受診を妨げる下記の要件は早急な改善が必要である。

- ① 国の制度として、18歳までの医療費を無料とすること。
- ② 小学生以下のこどもが医療機関を受診する必要がある場合は、診察に付き添う人は、別途有給休暇が取得できるようにすること。中小企業における当該有給休暇による損失については国が補填すること。

（2）眼鏡・補聴器購入に対する補助制度を拡充するとともに、歯科矯正については、下記③においては、保険適用とすること

- ① 裸眼視力0.7以下では、眼鏡による補正が必要になると言われている。弱視・斜視、先天性白内障術後については補助制度があるが、裸眼視力0.7以下についても補助制度の対象とすること。
- ② 中等度・軽度難聴も学業には影響がある。重度難聴については補聴器による補助制度があるが、中等度・軽度についても補助制度の対象とすること。
- ③ しっかりと噛めることは、子どもの成長にとって重要である。歯科矯正は、厚労省が指定する一部の疾患を除き原則自己負担での治療となっている。歯科検診において、機能不全に繋がる不正咬合で歯科矯正の必要があると指摘された場合は、保険適用とすること。同時に、歯科矯正医との連携を図る必要がある。

（3）学校における健康教育の充実及び保護者への理解の周知を

- ① 学校において、口腔や全身の管理の重要性などの健康教育を行うこと
- ② 養護教諭は複数体制とすること。
- ③ 保護者への理解を求める取り組みを国、自治体としても取り組むこと。

（4）下記については、今後一層研究及び対策を講じる必要がある。

- ① 未受診者が多い理由は、経済的な問題か、理解不足なのか。この原因と解決方法について、学校関係者、医療関係者、保護者、自治体、政府などが様々な角度から掘り下げていく必要がある。

② 未受診が、どのような身体的な影響を及ぼし、人生にどのような影響があるのかについても調査・研究が待たれる。

(5) 新型コロナウイルス感染症による子どもたちの心身への影響の把握と対策の一層の推進を図ること

(6) すみやかに全国調査を行うこと

今回の調査では、新型コロナウイルス感染拡大によって、全国 30 道府県の小学校、中学校、高校、特別支援学校において、「要受診」とされても必要な受診ができない児童・生徒が存在することが明らかになった。文部科学省が 1900 年から実施している「学校保健統計調査」は、統計法に基づく基幹統計調査（基幹統計である学校保健統計を作成するための調査）として、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的として行われている。しかし、実際に「要受診」となったものの、受診ができていなかったかどうかについては、この統計調査では拾い上げることができない。養護教員からは本調査については、「教育委員会を通じてメールで依頼した方が良い」との声や調査回答にあたっては大変な事務負担となったとの声も寄せられた。先ず、国や自治体が調査を行い、未受診をなくすことが求められる。

以上

歯科分野事例【栃木県】	
要注意乳歯が何本もあり、治療に行っていない状態のまま永久歯が生えている。	小学校
未処置歯12本、要注意乳歯2本、要観察歯1本あり、口腔内環境が悪い。	小学校
乳歯の未処置歯が13本あるが、受診はしている。	小学校
給食を食べる時、歯が痛くて固い物が食べられないことがあった。(虫歯は6本、大きな穴があいている虫歯が1本ある)	小学校
虫歯が10本以上ある児童は、毎年受診をしているが、治療はしていないようである。もう一人は、しばしば歯痛を訴えて保健室に来るが、受診してもらえません。	小学校
虫歯が9本という児童がいました。就学前から多い状態が続いている。受診している様子が見られたときもあったが、ほとんど治療が進んでいない状況である。	小学校
小学6年児童で永久歯が10本未処置歯がある状態です。	小学校
虫歯9本、要観察歯3本、歯肉の状態も良好ではなく、歯石付着。	小学校
歯科受診を欠席してしまう生徒の中に、う蝕のひどい生徒がいます。数字にあげた生徒は昨年まで休んでいました。	中学校
処置歯した部分を何年も放置し、虫歯になった。	中学校
中学校入学時には、すでに10本以上の永久歯の虫歯があり、市の医療助成もあるが、家庭の意識も低くなかなか歯科医へ行けない様子が伺える。前歯が根だけになってしまっている。中学校のうちに医療機関受診へつなげたい。	中学校
未実施のため不明	高校

眼科分野事例【栃木県】	
経済的な理由と本人が強く病院受診を拒否する。	小学校
小規模校のため問題ありませんが、大規模校であれば座席配慮等必要だと思います。	小学校
メガネ不適合で毎年受診を勧めているが、受診につながらない。経済的困難はなく、整形外科や内科などは受診するが、視力に対する関心が低いのか、一向に受診してもらえない。	小学校
視力Bだと、なかなか受診に結びつかない傾向はあります。	小学校
視力ではBだからよいと仮定で判断し行かないケースがみられる。アレルギー性結膜炎と花粉症の為、毎年診断され受診をためらうご家庭もある。	小学校
「外斜視」で医師にこの子は必ず病院へ行った方が良いと言われた児童がいたが、家庭が難しい状況なので、治療勧告を出しても行ってはいただけない状況。	小学校
担任から「クラス全体で視力低下者が多い」との話があった。詳しい人数は不明。	小学校
視力DDが3年続いているにもかかわらず、受診しない。席の配慮で様子を見ているが他の疾患がないか心配(保護者説明もした)。	小学校
視力がC,Dで何度か受診を勧めているが未受診のまま。移動教室での授業や通学、部活動などで困難が生じていると思われる。	中学校
要受診で眼科を受診し、眼鏡レンズ交換との指示が出たが、新しい眼鏡(視力にあったもの)を買い替えてない。→時間とお金の問題	中学校
要受診と判定された生徒が非常に多く、受診率が低い。視力:55.7%	中学校
新型コロナウイルスの感染を心配し、受診を控えたいという家庭あり。	中学校
要受診者が、Bからの通知になっているので、見えにくさを感じていない生徒が多い。	高校
眼科検診は未実施、視力検査は実施したものの受診勧告していないため不明。	高校

耳鼻科分野事例【栃木県】	
受診はしていないが、既に診断名をもらっている。	小学校
〇〇市は全校耳鼻科検診はありません。	小学校
アレルギー性鼻炎と耳鼻科検診で毎年言われ、受診をよく思わないご家庭もある。	小学校
聴力低下を放置していて、無視をしていると思われるで、友人関係が悪化してしまった。	小学校
聴力低下と耳垢塞栓が両方あるが受診しない。	小学校
ひとり親家庭	中学校
視力検査よりは判定された生徒は少なかったが、受診率が低い。耳鼻科：44.4%	中学校
耳鼻科検診は未実施、聴力検査は実施した者の受診勧告していないため不明。	高校

その他分野事例(内科・心臓検査・尿検査・皮膚科項目・運動器健診など)【栃木県】	
尿潜血で(E可・管理不要)年1回の定期検診、管理指導票の提出が必要だが、電話連絡等をして受診しない。コロナ予防と答えるが、連れていくのが面倒そうな様子がある。	小学校
心臓健診にて要精密検査となったが、学校は速やかな受診を促しているが応じない。	小学校
心臓の精密検査受診のお願いをしているが受診しない。	小学校
重度のアトピー性皮膚炎だが、保護者のこだわりがあり、手作りのクリームで対応している。受診はしていない。かゆみ・ひび切れがひどい。	小学校
学校心臓健診で精検対象となったが、何度か受診を依頼しても受診しない。	小学校
肥満で受診勧告書を出すと、きちんと受診してくれるおうちが改善傾向にあるが、受診しないおちは維持・増加傾向にある。	小学校
脊柱側弯症が疑われるが未受診。	小学校
高度瘦せだが、受診しない。	小学校
心臓健診の結果、要精検となっているが、コロナへの感染の心配があり、受診できずにいる。	中学校
高度肥満の判定で要医療であるにも関わらず、受診がない。	中学校
エピペンの更新がされない。	高校
心臓健診で要精密検査対象者にも関わらず、未受診の生徒を長距離走大会や修学旅行等の学校行事に参加させてもよいのかどうか。	高校

未受診の具体的記載【栃木県】	
移動手段が限られる。	小学校
2年度は新型コロナの影響から受診は保護者の判断とし、受診報告書の提出もなしとした。(町で統一)	小学校
受診はしているが、結果表を提出していないため。	小学校
体調が悪くなったり、生活に支障をきたしたりしていないから大丈夫だろうと考えている。	小学校
健康診断終了時期が遅い。外出自粛例が大きく、治療の推進も届かない。	小学校
耳鼻科について、病院に受診しても症状「なし」の場合が多く、高学年ほど受診率が低い。	小学校
親の仕事が忙しく、医療機関を受診する時間を確保できない。	小学校
疾患・所見・学校健診検診への理解不足。	小学校
生徒本人が行きたがらない、部活、塾等優先。	中学校
健康診断の時期が2学期以降に変更となった為、受診勧告してから日がないなど。	中学校
忙しい	中学校
両親ともいないので祖父母の家にいる。	中学校
通知が生徒のバックの中に入ったままで、保護者に届いていない。	中学校
生徒自身の時間がない(部活や塾等)。	中学校
生徒自身が健康に無関心。	高校
本人に自覚がない。	高校

新型コロナの影響事例【栃木県】	
咳が出ている友達を冷たい目で見てしまう(解決済み)。	小学校
不登校	小学校
「歯科受診が心配」と思っている保護者が多い印象。	小学校
臨時休校後、体力低下の傾向が見られた。ケガをする児童、熱中症疑いの児童が増えた。	小学校
運動不足・ケガの増加	小学校
骨折等、ケガをする児童の増加	小学校
学習に取り組めない1年生	小学校
健康診断実施日では特に増加はありませんでしたが、来年度は増加しているかもしれません。	小学校
骨折、怪我の増加	小学校
運動器障害の増加	小学校
10月の体重測定で6月よりも体重が0.5～1kg減った児童が5名いた。自粛中のコロナ太りだと分かった。	小学校
不登校傾向の増加	小学校
心の不安定	小学校
未受診、未検査	小学校
受診控え	小学校
前年、全前年の同年齢よりも、身長伸び率が平均1cm程小さかった。	小学校
別室登校	中学校
不登校傾向の増加	中学校
ゲーム依存、悪化→欠席が増えた	中学校
不登校の増加	中学校
受診率低下	中学校
健診時期の遅れ	中学校
1年生の不登校(傾向含む)増加	高校
気持ちが不安定になり保健室へ来室する生徒がいた。	高校

書ききれない事例・感想【栃木県】	
新型コロナの為、学校で歯みがきタイムが無くなりました。また臨時休業中には家でスマホやタブレットを見て過ごす時間が増えました。早く元の生活に戻れることを日々思います。	小学校
〇〇市は子ども医療費助成制度により、高3まで医療費が無料なので受診をすすめやすい。また、準要保護家庭には、眼科を受診して、眼鏡使用の診断がされれば、眼鏡券が発行され(金額に制限あり)、眼鏡作成、レンズの交換が無料になるので眼科受診もすすめやすい。	小学校
新型コロナウイルス感染症拡大による受診控えが多く考えられます。昨年度比、歯科受診率は50%減、視力(眼科)受診率は30%減となっている。	小学校
視力低下については、検査場所の影響も考えられるので、コロナの影響だけとは考えられません。	小学校
運動器検診、結核健診については、内科健診において学校医に診ていただいているため、要受診者の中に含めてあります。歯科健診は、受診者と治療済者は、数が違うためそのための調査が必要になってきます。本校は調査しているので把握できています。	小学校
本年度は受診報告を不要としたため、医療機関を受診した児童数は不明	小学校
コロナ禍での1番の影響は、新1年生の学校での生活や学習の取組みが課題。高学年では、休校中の生活の乱れ等からの不登校の課題。	小学校
例年と違い、健診の時期にバラつきもあり、受診勧奨を複数回行うことが難しかったことも原因かと思えます。	小学校
町内の方針で、積極的な受診勧告はしない(報告書は配布せず、検査結果のお知らせのみにする)となりましたので、今年度の調査は参考にならないと思います。	小学校
もし、結果を公表するのであれば、偏見・差別につながることはないよう御配慮ください。	小学校
就学前の予防接種について、おうちの方の考えで受けていない子が見られます。また、忙しすぎて、受けるのを忘れてしまっている方もいるので、小学校就学前に幼稚園、保育園からのアプローチをお願いしたいです。	小学校
設問7については、おおよその数なのですが、(コロナ)休業明けに肥満・やせの増加、視力低下者の増加が著しく、驚きました。休業中でも、「ほけんだより」を定期的に発行するなどすればよかったです。	小学校
新型コロナウイルス感染症の影響もあるのか、昨年と比較すると受診率が伸び悩んだ。学校側としてもコロナの感染状況を見ると、強く受診を勧めることができなかった。(特に眼科・歯科)例年より健診時期がずれ込んだため、定期的に受診しているような児童は定期受診後に受診勧告を発行することになり、再度受診しなければならないのか等の問合せがあった。	小学校
本校では、耳鼻科受診として単独の健診は行っておらず、内科健診と兼ねている。	小学校
調査結果をHPで公表するだけでなく、ぜひ国や県、市町村に周知し、全体の問題意識を高め、医療費助成の拡充等(眼鏡や補聴器等の医療器具作成費用等)につなげてほしい。(とても重要で貴重な調査の為)	小学校
コロナの影響による受診控えで、例年よりも受診率は低いように思います。心臓、腎臓の定期検査、食物アレルギーの定期検査も、受診を見合わせている児童がいます。	小学校
心理的視力低下や心理的難聴という診断を受けた生徒がいました。	中学校
各健診での困難事例とまではいかないが健診の日程が例年より遅くなり、歯科の受診勧告者数が例年より多くなったのかと推察される。休校期間もあり不規則な生活習慣なども少なからず健診結果に影響があったのではないかと思う。	中学校
未受診の生徒で、症状がそこまでひどいわけではないので、困難事例には該当しないが、全体的に未受診の人数が増えているように感じる。虫歯が10本以上あった生徒には、保護者の承諾を得て、検医の所へ連れて行ったこともありました。	中学校
不登校等による欠席者が多く、健康診断の受診自体が無い生徒もいる。また、欠席者への受診案内が大変。	中学校
2020年度は、新型コロナウイルス感染症の事もあり、視力検査等は、保護者へ結果と専門家への受診を勧めるという通知のみ(受診勧奨用の文書ではなく)にしました。	高校
本年度はコロナ感染症のため、眼科・耳鼻科検診は症状のある生徒・検診を希望する生徒の受診とした。	高校